

防災・震災対策調査特別委員会 視察報告書

視察日：令和6年12月19日(木)～20日(金)

視察先：兵庫県神戸市、淡路市

令和7年1月

目 次

第 1 部 視察にあたって

- 1. 視察実施までの経緯 1
- 2. 目的と視察項目 1
- 3. 視察地 2

第 2 部 視察内容

- 1. 兵庫県神戸市 視察の概要 3
- 2. 北淡震災記念公園（兵庫県淡路市） 視察の概要 13
- 3. 人と防災未来センター（兵庫県神戸市） 視察の概要 16

第 3 部 視察成果のまとめ

- 各委員の報告 20
- 視察行程 31

第1部 視察にあたって

1. 視察実施までの経緯

- 令和6年 5月27日 防災・震災対策調査特別委員会正副委員長の互選を行い、島村高彦委員長、中山よしと副委員長が選任される。
- 6月 4日 委員会の調査に資するものがあると判断された場合には、視察を行うことを確認する。
- 10月29日 視察先について、正副委員長案のとおり決定する。
- 12月12日 視察の概要及び行程について了承する。
- 12月19日 視察地へ出発する。(東京駅集合・総勢14名)

2. 目的と視察項目

◆ 目的

阪神・淡路大震災の被災自治体における復興への取組と震災関連施設を視察し、効果的事例や諸課題等を収集し、豊島区の防災・震災対策の資とする。

◆ 視察項目

(1) 兵庫県 神戸市

- ①震災後の復興について
- ②防災対策等について

(2) 兵庫県 淡路市

- ①現地視察 (北淡震災記念公園野島断層保存館)

(3) 兵庫県 神戸市

- ①現地視察 (阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター)

3. 視察地

(1) 神戸市

神戸市は、国際貿易港を中心に発展してきた大都市であり、海と山、魅力ある街並み、そして、美しい田園に恵まれた多様性のある街である。また、1868年の開港以来、多くの外国人が移り住み、常に海外からの多様な文化や新しい気風を取り入れながら、国際都市・神戸として個性豊かな発展を遂げてきた。

人口：1,492,953 人（746,543 世帯）

（令和6年4月1日現在）

面積：557.05 平方キロメートル

（令和6年4月1日現在）

令和6年度一般会計 当初予算 9,056 億 9,350 万円

(2) 北淡震災記念公園野島断層保存館（淡路市）

兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）で現れた断層をありのままの姿で保存・展示している施設である。断層による様々な地形の変化が観察でき、将来起こりうる大地震に備える大切さが学ぶことができる。

(3) 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター（神戸市）

阪神・淡路大震災の経験と教訓を世界に、そして未来へと発信する災害ミュージアムである。地震発生の瞬間を再現した映像上映や、震災直後のまち並みを再現したジオラマ模型のほか、被害者から提供された震災関連資料展示、防災・減災の知識を身に付ける簡単な実験装置などもあり、幅広く災害について学ぶことができる。



第2部 視察内容

1. 兵庫県神戸市 視察の概要

(冒頭挨拶) 神戸市会副議長	堂 下 豊 史 氏
(対応) 神戸市企画調整局大学・教育連携推進課 課長	稲 田 憲 樹 氏
大学・教育連携推進課 課長 (都市政策研究担当)	伊 藤 聡 氏
大学・教育連携推進課 係長 (都市政策研究担当)	野 口 順 平 氏
公益財団法人神戸市民文化振興財団 専務理事	古 川 厚 夫 氏
危機管理室 係長 (危機対応担当)	椛 山 裕 貴 氏



島村委員長挨拶



神戸市 大学・教育連携推進課 (都市政策研究担当) 伊藤課長より概要説明

1 阪神・淡路大震災の被害状況（神戸市）について

死者	4,571人
	(2005年12月)
負傷者	14,678人
	(2000年1月)
建物倒壊	全壊 67,421棟
	半壊 55,145棟
	(1995年12月)

震災当時の神戸市役所2号館の一部が倒壊、1号館とつなぐ連絡通路も損傷を受けた。市役所自身も職員も被害を受けたという中で、復興復旧復興を進めた。

■市庁舎の被害



質疑応答

質問 復興にかかった予算・決算の状況、財源構成、財政支援状況について教えてください。

回答 震災関連事業費として2兆8,863億円を計上した。会計別では一般会計で2兆1,598億円、特別会計で2,593億円、企業会計で4,672億円かかった。

財政支援として、災害復旧資金の貸し付けなどの生活支援(1,827億円)、ガレキ処理や公共施設の復旧などの災害復旧(8,372億円)、区画整理や再開発、公営住宅建設などの復興対策(1兆8,664億円)を実施した。

財源(一般会計)は、国庫支出金6,353億円、県支出金684億円、市債1兆345億円、その他特定財源1,649億円、一般財源2,567億円であった。

※市債残高の最終償還は令和22年度末予定。

質問 財政的に復興費の多くを市で賄わなければならないことから、行政改革も相当進めざるをえなかったと思うが、どういった対策を講じたか。

回答 阪神・淡路大震災以降の約30年にわたる行財政改革計画により、職員定数を震災当時の21,728人の40%にあたる約8,200人に削減し、外郭団体も震災当時の64団体から30団体に削減するなどの取り組みを進めてきた。また、2003年から2005年まで行政経営方針等に基づき職員の給与カットを実施した。

質問 発災後全庁での発災対応となったと思うが、本来の役所業務と発災後の復興などのために実施すべき業務は、所管部署を分けて対応したのか、1つの課で対応したのか。

回答 【震災復興本部総括局の新設】

震災直後の平成7年1月26日に、市長を本部長、助役を副本部長とする全庁的なプロジェクト体制をとる「神戸市震災復興本部」を設置した。復興本部には復興計画の策定と全庁的な調整を図る組織として、「震災復興本部総括局」を設置した。

震災復興本部総括局の組織は、局相当の組織として、当初、2課（調査課、計画課）体制でスタートしたが、平成8年度の組織改正でマスタープラン等を担当する企画調整局と統合した。

【生活再建本部の新設】

生活再建に関わる全般的な調整を行うとともに、仮設住宅入居者への支援、仮設住宅から恒久住宅への円滑な移行の促進、各種給付事業に取り組むことにより、被災市民の生活の再建と安定を支援するため、旧民生局から災害対策組織を独立させ、平成8年4月に生活再建本部を設置した。

同時に各区役所にも生活再建本部と連携して生活の再建と安定を支援するため、生活再建担当のスタッフを配置した。

【復興区画整理部の新設】

甚大な被害を被った市街地の住環境を早急に整備するため、平成8年4月に都市計画局に復興区画整理部を新設した。

【まとめ】

上記のとおり、復興に関連する業務については、新たな組織の設置や、組織の再編により専任部局で対応したケースもあるが、関連性のある業務を担う既存組織において体制強化を行い対応したケースや、組織の枠組みを超えて、プロジェクトチームを設置して対応したケースなど、様々な手法で取り組んだ。

2 発災時の対応・危機管理システムについて

■阪神・淡路大震災時のライフラインの被害の状況

- ・電気：市内全域停止[7日後に復旧]
- ・電話：約25%停止[15日後に復旧]
- ・水道：市内ほぼ全域停止[91日後に復旧]
- ・ガス：約80%停止[85日後に復旧]
- ・下水道：東灘処理場の機能停止など[135日後に復旧]
- ・クリーンセンター：全クリーンセンターが運転停止[35日後に復旧]
- 経済的損失（推計値）：6兆9千億円（神戸市内総生産1年分に相当）

■南海トラフ地震による被害想定

洲本市・南あわじ市で震度7

瀬戸内海沿岸（神戸・尼崎等）で震度6強

1000年に一度の津波

神戸市内の最高津波水位と津波到達時間									
	東灘区	灘区	中央区	兵庫区	北区	長田区	須磨区	垂水区	西区
最高津波水位	3.3m	3.2m	3.9m	3.5m	—	2.7m	3.0m	2.6m	—
最短到達時間	110分	109分	91分	89分	—	88分	85分	83分	—

兵庫県南海トラフ巨大地震津波浸水シミュレーション（H26.2.19公表）

最高津波水位：3.9m（中央区）

最短到達時間：83分（垂水区）

*ただし高さ1mの津波が到達する時間

■災害時の体制

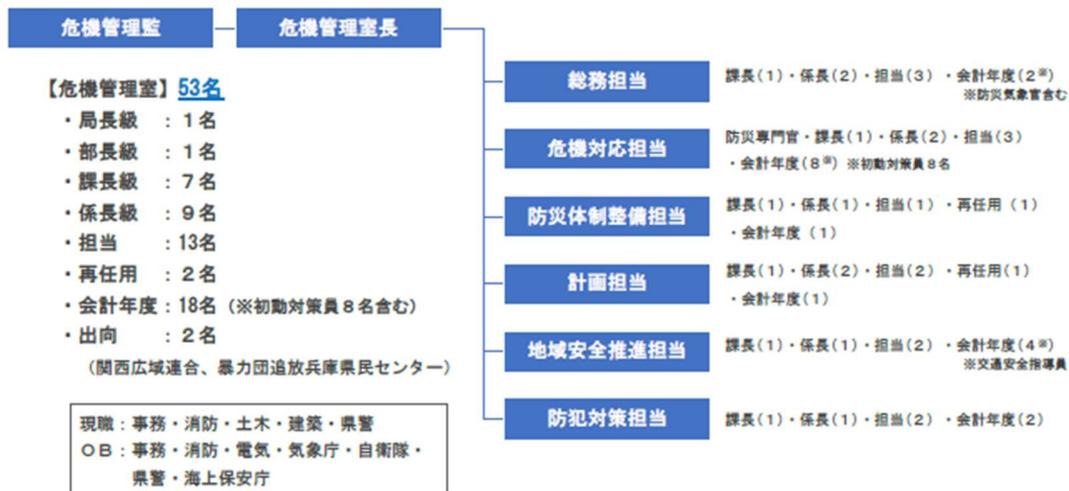
○神戸市の指令拠点：神戸市危機管理センター（中央区、市役所の西側）
（2012年4月から稼働）

- ・地上9階・地下1階、免震構造
- ・危機管理システム・デジタル防災行政無線システム・消防管制システムを配置
- ・災害時の初動対応の拠点として機能

・災害の全容を早期に把握し、災害救助や応援要請等の意思決定、市民・関係機関等への情報提供を迅速・効率的に行う。

○神戸市における平時の危機管理体制

危機管理監をトップに、危機管理室長以下、下図のと通りの体制となっている。神戸市の特徴として、警察、消防からの出向の受入れや、県警・自衛隊・海上保安庁の退職職員を初動対策員として配置するなど連携している。



○災害時の神戸市の体制（職員配備計画）

職員に対して4種類の防災指令を発令。最も重大な防災指令第3号においては、震度6弱以上、または津波警報の発表時には自動で発令し、全職員約2万人が対応。

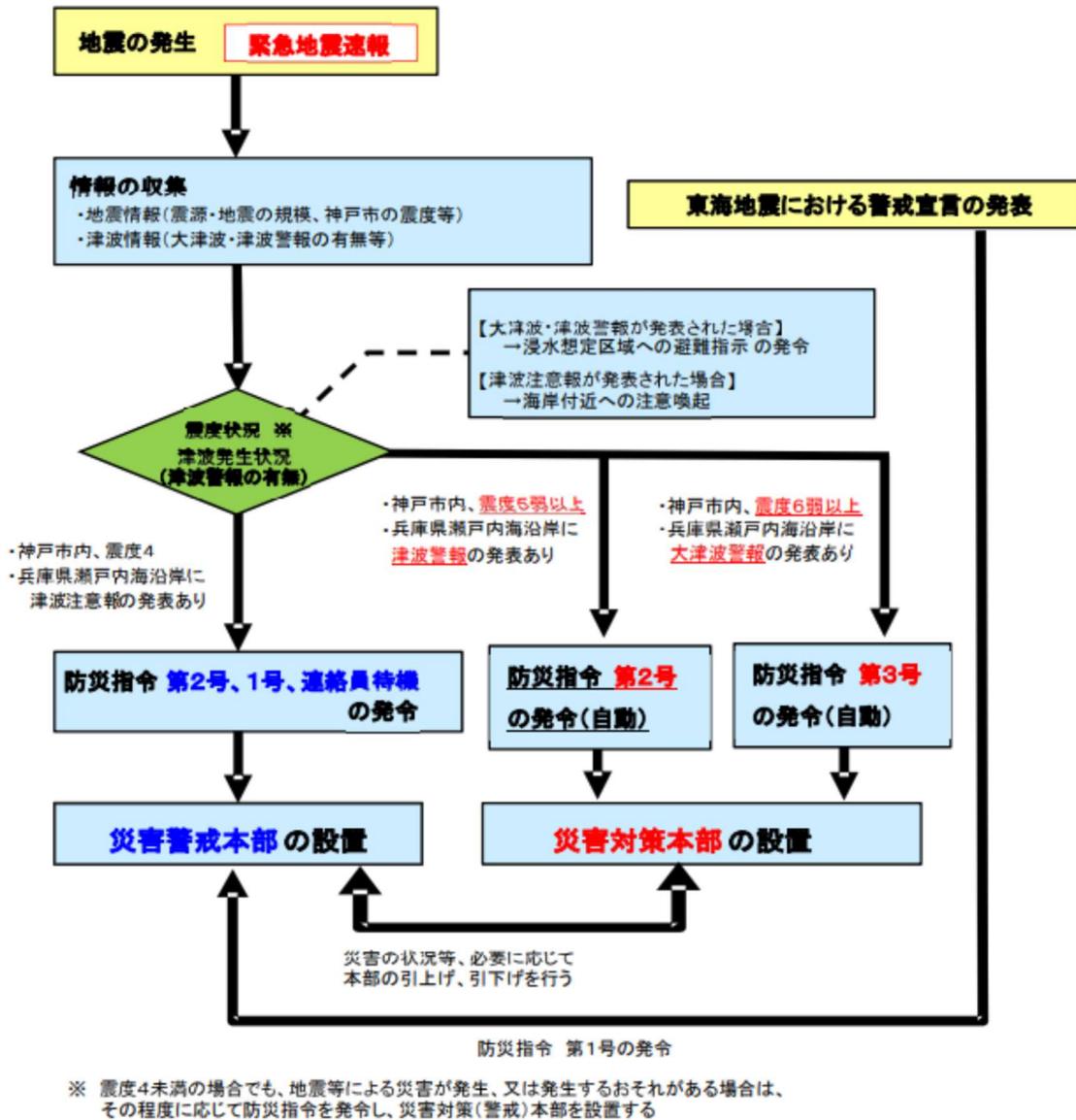


○災害発生時の対応フロー

神戸市域において災害が発生又は発生する恐れがある場合、市民の安全確保を迅速かつ確実にを行うための防災体制の早期確立を行うため、下記の手

順に従い、防災指令の発令及び災害対策（警戒）本部を設置する。

(地震・津波災害)

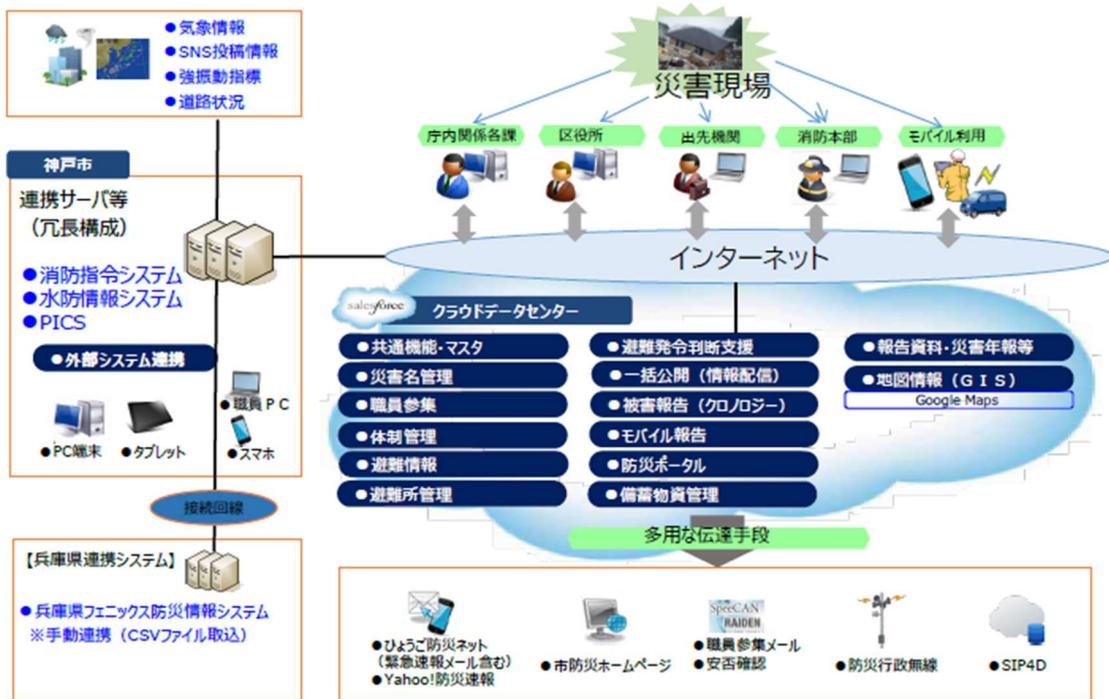


■危機管理システム

○神戸市危機管理システム概要

NTTデータのシステムである「EYE-BOUSAI」を神戸市用にカスタマイズしており、生命を守る活動に注力でき、災害に強く、業務の変更に柔軟・継続的に対応できるという特徴がある。システムに登録した情報はIDとパスワードのある市職員であれば誰でも閲覧できるため、即時の情報共有が可能となる。

消防局のシステムとも連携しており、119番通報が入ったものは全て危機管理システムに自動で反映される。



○市民への避難情報の発信

市民への情報発信についても危機管理システムと通じて一括で迅速に情報発信が行える。システムで集約した情報を市民が活用できるよう、特設サイト「リアルタイム防災情報」を開設。

警報・注意報、地震・津波情報や土砂災害警戒情報、避難情報・避難所情報等対策本部から発表する情報、防災行政無線の放送内容、雨雲レーダー、24時間天気情報(当日・翌日分)等幅広い情報が確認できる。

情報をおつめる5つの方法

1 テレビ 緊急地震速報 津波警報 避難指示	2 ラジオ 緊急地震速報 津波警報 避難指示	3 携帯電話 インターネット 緊急地震速報 津波警報 避難指示	4 防災行政無線 津波警報 避難指示	5 広報車 市からの広報
--	--	---	---	--------------------------------------

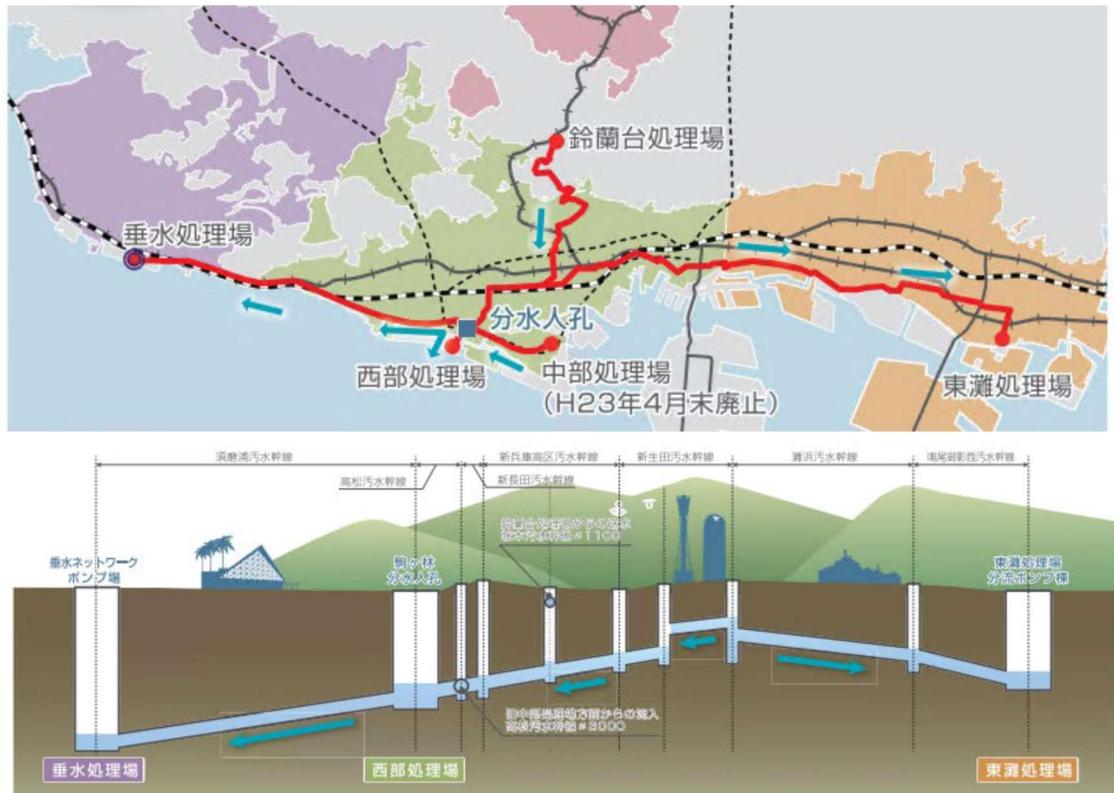
緊急速報メール(エリアメール)
 メール配信サービスの一つで、特定のエリア(神戸市全域・行政区単位)ごとに、対応機種の携帯電話やスマートフォンに直接情報を一斉に配信するものです。

ひょうご防災ネット
 事前に携帯電話から登録しておく、神戸市や兵庫県から気象情報などの緊急情報や避難に関する情報のお知らせメールが届きます。

3 ハード整備による災害対策について

■下水道の確保（下水道ネットワークシステム）

下水処理場が機能停止した場合でも、汚水を他の処理場に送水し処理できるよう、市内の4つの処理場を下水道管渠（ネットワークシステム）でつないでいる。

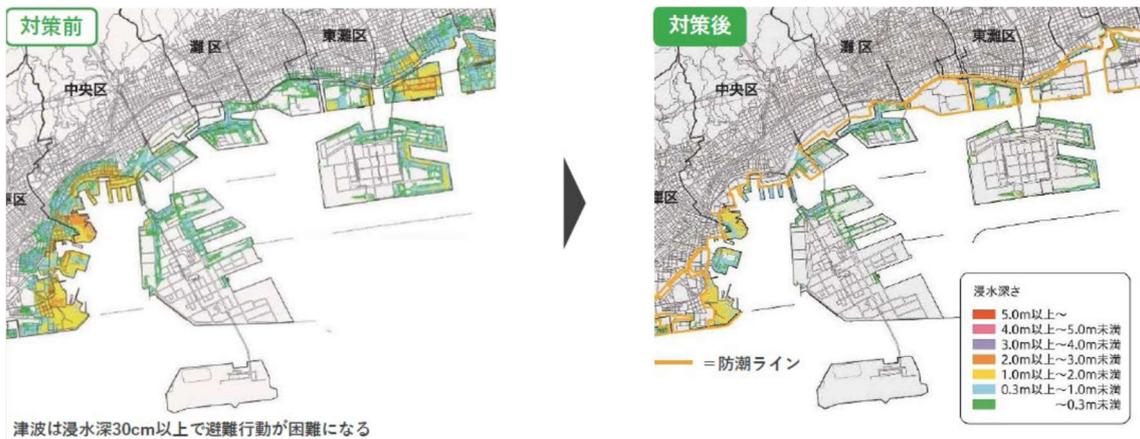


■防潮堤の整備

高潮の被害への対策として整備した防潮堤を活用し、1000年に1度の津波・高潮にも耐え得るよう、かさ上げや粘り強い構造にしている。また、タブレットを利用した防潮堤の鉄扉閉鎖の遠隔操作等についても進めている。



防潮堤の強化により、浸水深は人命に影響を与えない30cm未満まで軽減



質疑応答

質問 以前の視察で、火災時にモニターで煙が増えている状況等も瞬時に見られるシステムを見させていただいたが、今も使用しているか。

回答 消防局のシステムのことだと思うが、おそらく今でも使っている。

質問 以前、長田区の消防職員の方から、消防職員は、人命も当然大事だが、命を救うためにまずは消火活動をするべきと伺った。現在もそのような考えか。

回答 消防職員は消火活動、消防団あるいは自主防災組織が人命救助、というところで役割分担するという活動方針である。



中山副委員長挨拶



神戸市会議事堂前にて

2. 北淡震災記念公園（兵庫県淡路市） 視察の概要

1 施設概要

開園：1998年に開園

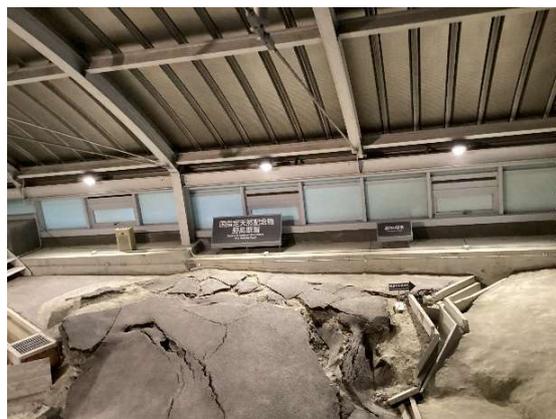
管理運営：株式会社ほくだん

北淡震災記念公園総支配人：米山 正幸代表取締役社長

2 野島断層保存館

野島断層の一部をありのままの状態ですべて屋内保存。破壊された道路、生け垣のズレや地割れなど断層による様々な地形の変化を見学できる。

現地視察の様子



国指定天然記念物野島断層



あぜ道の右横ずれ



生け垣のズレ



トレンチ展示



神戸の壁

3 メモリアルハウス

地層断層が横切る民家を、メモリアルハウスとして保存。敷地内を走る断層や震災当時の建物のようなすが公開されている。

現地視察の様子



メモリアルハウス入口



家の塀



震災直後の台所の再現



家屋の傾き



野島断層保存館前にて

3. 人と防災未来センター（兵庫県神戸市） 視察の概要

(対応) 人と防災未来センター 副センター長（運営担当） 須貝 正俊 氏
事業部次長兼事業課長 森口 芳隆 氏



人と防災未来センター 須貝副センター長より概要説明

1 施設概要



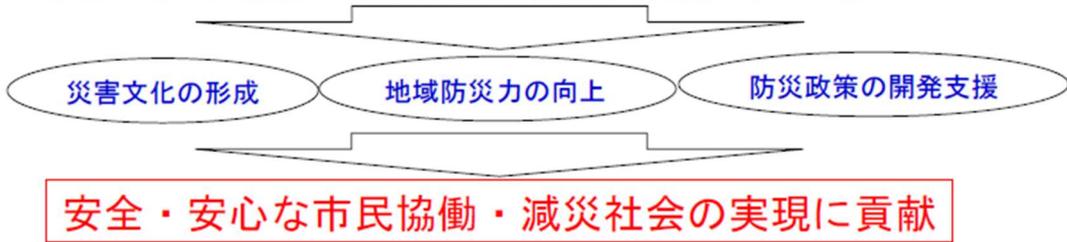
設置：2002年4月に兵庫県が設置（国が西館の建設費の1/2を支援）

運営：（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構

センター長：河田恵昭関西大学社会安全研究センター長・特別任命教授

■ ミッション

阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、教訓を未来に活かす



■西館のデザインコンセプト

- ・ガラスのキューブが水盤に浮かぶデザインにより、水に困った大震災の教訓を象徴。建物全体が震災のメモリアルモニュメント。
- ・4面をガラスで覆い、周辺の風景を移し込むことで、一体となって助け合うことの重要性を表現
- ・ガラス面が中央から外に向かって段を設けることで、情報を発信し続けていくことを表現

2 機能

人と防災未来センターは、「展示」「資料収集・保存」「実践的な防災研究と若手防災専門家の育成」「災害対策専門職員の育成」「災害対応の現地調査・支援」「交流・ネットワーク」という6つの機能を有している。

① 展示

被災者・市民・ボランティアなど多くの人々の協力と連携のもと、阪神・淡路大震災の経験と教訓を発信し、幅広い世代が様々な体験を通じて防災・減災を学ぶことができる。

② 資料収集・保存

平成7年10月から資料収集を開始。被災者の想いと震災の教訓を次世代に継承するため、関係資料を継続的に収集・蓄積・解析し、防災情報をわかりやすく整理、発信

③ 実践的な防災研究と若手防災専門家の育成

政府・地方自治体・コミュニティ・企業などの防災政策や災害対策の立案・推進に資する実践的な防災研究を実施。また、若手研究者を常勤として3～5年の任期で採用

④ 災害対策専門職員の育成

全国の自治体の防災・危機管理担当職員を対象に、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた実践的な研修を実施

⑤ 災害対応の現地調査・支援

大規模災害の発生時に、センターの専門家を被災地の災害対策本部等に派遣。被災地の現状と課題を調査し、今後の災害対応について助言

⑥ 交流・ネットワーク

災害発生時に連携した対応を実践するため、研修を受講した行政実務者や研究者等とネットワークを形成

現地視察の様子



視察の様子



震災の記憶を残すコーナー



防災・減災ワークショップコーナー



自然現象のメカニズムを学ぶコーナー



人と防災未来センター西館前にて

第3部 視察成果のまとめ

各委員の報告

防災・震災対策調査特別委員会視察報告書

委員長 公明党豊島区議団 島村 高彦

■総括的な感想

関東大震災以降、長い時を経て発生した都市直下型の大震災でもあり、一般市民にとっては、精神的にも、物資的にも、全くといっていいほど備えなく被災したことから、大変な惨状であったと考えられる。私ども東京副都心地域においては地形的にも、その後発生した多くの震災の中でも、この阪神・淡路大震災こそ参考にすべきものと感じた。

■視察先

神戸市役所、北淡震災記念公園、人と防災未来センター

■視察の成果

- 震災前から、あらかじめ復興計画マスタープランの改定作業に取り組んでいたとのことで、その重要性を改めて実感した。
- 災害の備えとして、生活インフラ(下水道、電力、生活用水、トイレ、輸送用道路等)を強固に整備しておかなければ、その後の被災生活を維持できないと実感した。
- 現状、神戸市では12言語対応の危機管理システムを整備している。災害時の支援体制として本区も参考にすべきと考える。
- 視察先の北淡震災記念公園、人と防災未来センターなど、震災遺構ともいべき施設が明確に残されていることは、災害対応の必要性を多くの人に伝える上で、きわめて重要であると感じた。

■その他

本区小中学校の移動教室、修学旅行等で今回視察先の施設で学んでもらうことも必要ではないでしょうか。

防災・震災対策調査特別委員会視察報告書

副委員長 立憲・れいわ・市民の会 中山 よしと

■総括的な感想

阪神・淡路大震災は大規模災害であり、その被害は甚大であった。ということは周知の事実かと思えます。私も大変な災害であったという認識はありましたが、実際に断層や建物の崩れるさまを初めて目の当たりにし、震災を実際よりも甘く考えていたと認識させられました。

■視察先

- ・神戸市役所
- ・北淡震災記念公園
- ・人と防災未来センター

■視察の成果

今まで分かった気になっていた震災について、より現実的にその破壊力を理解できたと考えています。私は今まで、震災が起きた後の避難した人々の安全とその復興について考えることが多かったですが、避難するしない以前にそもそも逃げる事が出来ない事態について、その対応を考えることも非常に重要なことであると認識を改めました。

■その他

視察を受け入れてくださった先様、視察をスムーズに進めてくださった事務局、道中様々なことを教えてくださった他の委員の皆さま、本当にありがとうございました。

防災・震災対策調査特別委員会視察報告書

豊島区無所属元気の会 小林 弘明

■総括的な感想

神戸市は、災害に強い街づくりに力を入れ続けているということは当然の前提として、大震災を被災したという災害経験を他の自治体へ共有し、伝えていくという信念が感じられた視察であった。

■視察先

神戸市役所、北淡震災記念公園・野島断層保存館、人と防災未来センター

■視察の成果

神戸市役所

これから起こりうる災害に備えての施設や準備を徹底して行っていることを実感することができ、このことが必ず日本の震災災害対策に役立つことを痛感した。震災遺構や教訓にしても遺すべきものを遺して頂いたことで、その時震災を経験しなかった子ども達も含めて、私たちが必要な災害対策に結びつくことを確信した。

北淡震災記念公園・野島断層保存館

野島断層は今回の視察で初めて見ることができた。具体的な亀裂の様子などがはっきりとわかるため、地震の恐ろしさがより鮮明に伝わってくる。当時高速道路が崩落した映像などあったが、インフラに多大な影響が出るということも理解できる。このような状況を後世に遺すことで、発災から約 30 年経つ今でも災害に強い街づくりを継続していけるのだと実感した。

人と防災未来センター

社会科見学で小中学生が多数おり、しかも様々な地域から来ているということを知っていただいた。修学旅行で訪れている学校もあるということで、皆一様に非常に真剣に話を聞いていた。豊島区でもこのような場所を見てもらうのもよいかもしいと感じた。多くの映像や体験を通して震災の恐ろしさを改めて学ぶことができる施設で、その存在意義は非常に大きいものであることを実感した。

■その他

阪神・淡路大震災災害当時を経験した職員が、東日本大震災や、先般の北陸能登の震災にもかけつけ、阪神淡路大震災でのノウハウを活かした支援を他自治体でも行っているとのことで、そのような活動に改めて敬意を表します。

防災・震災対策調査特別委員会視察報告書

維新・無所属の会 入江 あゆみ

■総括的な感想

阪神・淡路大震災から約30年が経過する神戸市の復興と防災対策について、貴重な学びを得ることができた。特に、震災直後からの迅速な復興計画の策定、市民との協働によるまちづくり、そして教訓を活かした防災・減災への取り組みは、豊島区の防災施策を考える上で大変参考になった。また、北淡震災記念公園での野島断層の保存、人と防災未来センターでの震災の記録と教訓の継承など、震災の経験を風化させることなく後世に伝えていく取り組みの重要性を強く認識した。

■視察先

神戸市役所
北淡震災記念公園 野島断層保存館
人と防災未来センター

■視察の成果

- 1 神戸市の震災復興について
 - ・ 発災から半年という短期間で復興計画を策定し、迅速な復興への道筋をつけた点が注目される
 - ・ 区画整理事業などハード面の整備と、コミュニティの再生などソフト面の取り組みを並行して進めた点が参考になる
 - ・ 危機管理システムの導入により、災害情報の収集・共有・発信を一元化している点は豊島区でも検討に値する
- 2 震災の経験と教訓の継承
 - ・ 野島断層保存館での実際の地震の痕跡保存は、震災の威力を実感できる貴重な教材となっている
 - ・ 人と防災未来センターでの展示や語り部による講話は、防災意識の向上に大きな効果がある
 - ・ 防災教育・啓発施設としての機能は、豊島区での防災教育を考える上で示唆に富む

■その他

復興過程における市民との協働や、ボランティアとの連携など、「共助」の重要性について改めて認識することができた。これらの知見を豊島区の防災計画に反映させ、区民の防災意識向上と地域防災力の強化につなげていきたい。

防災・震災対策調査特別委員会視察報告書

公明党豊島区議団 高橋 佳代子

■総括的な感想

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災は、国内観測史上初の最大震度7を記録し、神戸市内被害状況は死者4,571人、行方不明者2人、負傷者14,678人。建物全壊67,421棟、半壊55,145棟、延べ火災による焼損面積819,000㎡という、とてつもなく大きな被害をもたらした。

神戸市は早期の復旧・復興を図るため、2兆9千億円もの莫大な復興関連事業の投入と多額な市債発行など、非常に厳しい市政運営を行ってこられた。その中でも、関係機関と連携し生命を守る活動に注力した「神戸市危機管理システム」は、他の自治体にとっても大いに参考になり、市民の生命を守り抜くという神戸市の決意がにじみ出ている。

復興を果たした神戸市のまちなみとは対照的に、淡路島の野島断層保存館には、当時の活断層である野島断層が動いたことによる地面のずれがそのまま保存されており、自然の脅威をあらためて痛感した。

また、人と防災未来センターでは、この震災の経験と教訓を継承し、世界的な防災・減災のためのネットワークの拠点として活動されている。

2025年で阪神・淡路大震災発生から30年となる。首都直下地震や南海トラフなど、今後必ず発生するとされている大規模災害について、どう立ち向かっていくのかを改めて考えさせられた重要な視察となった。

ご多忙の中、豊島区防災・震災対策調査特別委員会の視察を受け入れてくださった神戸市役所、野島断層保存館、人と防災未来センターの方々に心から感謝を申し上げます。

■視察先

- 12/19 1. 神戸市役所
2. 北淡震災記念公園（野島断層保存館）
12/20 3. 人と防災未来センター

■視察の成果

1. 神戸市役所

阪神・淡路大震災発生から5カ月余りで復興計画を策定されている。迅速に進んだ理由は震災直前までマスタープランの改定作業がすすめられており、ほぼ改定案が作成されていたことが大きく寄与している。震災直前の課題が把握されており、計画策定に従事する人材が確保されたこと、事務局と各部局との密接な連携が醸成されていた結果、迅速な計画策定を可能としたとのこと。港湾や道路など都市基盤は2～3年で復旧し、公営住宅の建設が完了して仮設住宅も解消し、市民生活のハード面は5年でほぼ復興したとのこと。その反面、

市民の生活再建や経済の再生、安全で安心な住まい・まちづくりなどが後半5年で課題となった。その課題を解決するため神戸市は「神戸市復興計画推進プログラム」を平成12年度に策定している。

特筆すべきことは、復興後期の施策の特色として、復興前期までの復興特別施策の一般施策化が進んだことがあげられる。

また、神戸市は市役所の隣に神戸市危機管理センターを設置され、災害時の初動対応の拠点として、危機管理システム・デジタル防災行政無線システム・消防管制システムを配置している。災害が発生すれば、全容を早期に把握し、災害救助や応援要請等の意思決定、市民・関係機関等への情報提供を迅速・効率的に行うとしている。

2. 北淡震災記念公園（野島断層保存館）

阪神・淡路大震災は活断層である野島断層が動いたことにより発生し、断層による地面のずれは本淡町内に10kmに亘ってあらわれ、道路や畑、生け垣のずれなどが保存されている。自然災害である地震のエネルギーの強さと凄さをあらためて痛感。国内には2,000もの活断層があるとされており、このエネルギーと対峙して今後どのように防災・減災対策を前に進めていくのか、様々な被災自治体の教訓を生かして我が事として取り組んでいかなければならない。

3. 人と未来防災センター

阪神・淡路大震災の経験と教訓、防災・減災・縮災の大切さを21世紀と世界に発信するために設置され、災害対策の専門職員の育成や災害対応の現地調査・支援なども行っている。

1. 17シアターは、阪神・淡路大震災の地震の破壊力が映像と音声で再現されており、何度見ても胸がグッと重くなる。震災の記憶フロアでは、被災者の体験談と共に関係資料を展示。復興までをたどる展示も、神戸市役所でご説明いただいたのでよく理解できた。防災・減災フロアでは世界で発生した自然災害を学ぶことができ、液状化の実験等、子どもたちが興味深く学習している姿が印象的だった。

■その他

神戸市役所の南側の公園内に「慰霊と復興のモニュメント」が設置されている。地下へ入ってみると、電気を使わず自然光で明かりがとられ、滝の下に位置する場所に震災で亡くなられた方のお名前が掲示されている瞑想空間がある。そのお名前の多さに、胸が締め付けられた。震災発生から30年。まちは復興を果たしたが、家族を亡くされた方々にとって震災の傷が癒える事はないであろう。

防災・震災対策調査特別委員会視察報告書

自由民主党豊島区議団 芳賀 竜朗

■総括的な感想

首都直下地震が起きると言われて久しいなか、阪神・淡路大震災から30年が経過するタイミングで視察ができ、いかに大きな災害であったか、また復旧・復興の道のが財政面も含めいかに困難な道であったか改めて確認することができた。

豊島区の震災対策の参考になる多くの教訓を得ることができ、有意義な視察となった。

■視察先

- ・神戸市役所
- ・北淡震災記念公園
- ・人と防災未来センター

■視察の成果

- ・日頃から備えておく事がいかに大切か再認識させられた。国や自治体として備え(公助)はもちろんだが、地域コミュニティの連携強化(共助)や、そしてなにより国民一人一人が、精神的にも物質的にも災害に備えておく事(自助)がいかに重要か再認識させられた。
- ・震災の記憶と記録を後世に伝えていく事は、防災意識を高める一助になると感じた。
- ・人と防災未来センターなどは、学校教育に盛り込むことができれば阪神・淡路大震災を知らない世代に対しても有意義だと感じた。

■その他

防災・震災対策調査特別委員会視察報告書

自由民主党豊島区議団 磯 一昭

■総括的な感想

阪神・淡路大震災から本年（令和7年）で30年が経ちました。復旧・復興には長い年月と、多大な財源が必要であることを改めて、認識させられました。日頃より防災・減災対策の重要性も再確認することができ、今後の豊島区の対策・対応の参考になる事が多々あり、大変に有意義な視察であったと思います。

■視察先

- ・ 神戸市役所
- ・ 北淡震災記念公園
- ・ 阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

■視察の成果

被災された方々（語り部の方も含む）の体験談、アドバイス等、私達が今、出来る事は何か再考することの大切さ、自助は元より共助、コミュニティの重要性を区民の皆様、地域の方々と共有する話題の一つとなりました。

■その他

防災・震災対策調査特別委員会視察報告書

都民ファーストの会豊島区議団・国民民主党 星 京子

■総括的な感想

阪神・淡路大震災から30年。

阪神・淡路大震災は、未曾有の大災害であり、神戸経済を支えてきた産業は大打撃を受けるとともに、震災が奪ったものは、命、仕事、団欒、街並み、思い出や希望など、人々のすべてを奪い取りました。

今もなお復興に向けて厳しい財政運営や様々な社会課題を抱えており、被災者の住宅・生活再建、災害関連死、被災コミュニティの再生、中小企業の再建等、複雑多岐にわたる復旧・復興に向けて、多角的な取り組みが求められます。

■視察先

- ・神戸市役所
- ・北淡震災記念公園
- ・人と防災未来センター

■視察の成果

復興計画の策定には、行政だけではなく各事業者との密接な連携など、社会全体での対策が不可欠であり、時代背景を捉えた復興計画策定の推進が必要。

■その他

これからの復興を担う子どもたちが、震災を通じて社会と連携する力、地域ぐるみで養う環境など、社会全体で育てるまちづくりを目指して頂きたい。

防災・震災対策調査特別委員会視察報告書

日本共産党豊島区議団 垣内 信行

■総括的な感想

世界は今、災害多発、激化の時代のなか減災社会のために何をすべきかが問われているところです。昨年1月元日の能登半島地震発生から一年が経過していてもいまだに復興が遅れ、被災した方から「見捨てられているようだ」という声まで起きていますが、災害に対する政治の責任が重く問われる中での視察でした。災害から命をどう守るのが改めて問われ、加えて東日本大震災、阪神・淡路大震災などの教訓を本区の防災・震災対策にどう生かしていくかが求められています。今回は、阪神・淡路震災後の復興を目的にした視察でしたので、被災直後の状況から復興に至る長い30年間の取り組みと街づくりの変化、住民の認識などについて自治体に直接伺い、学び、本区の防災対策に生かす取り組みを具体化していきたいと感じました。

地球温暖化による異常気象によるゲリラ豪雨、いつ襲ってくるかわからない大地震に対する対策は、緊急かつ、きめ細やかな対応が求められています。神戸市が取り組んできたこと、その教訓をどう本区に生かしていくか、関係部局と探求して区民の防災対策を進めていく決意を新たにしました。

■視察先

- ①神戸市 神戸市役所 ①震災後の復興について
②防災対策等について
- ②北淡震災記念公園 ①現地視察（野島断層保存館）
- ③人と防災未来センター①現地視察

■視察の成果

①神戸市 神戸市には震災後二回視察を行いました。復興の状況について計画の策定、職制、行政改革、他の自治体との連携、生活弱者への支援、街づくりなどを詳細にまとめた報告をうけ、復興への道のりがいかに苦難の道だったことを改めて知らされました。特に復興にかかった予算・決算の状況、財源構成、財政支援については調査したいところでありました。事前をお願いしてまとめていただき、その莫大な復興財政の規模に驚きと政治の責任の重さを改めて感じました。

②北淡震災記念公園 淡路島は初めての視察だったので被災状況の深刻さを語る野島断層保存館を視察して直下型地震の恐ろしさを思い知らされました。現地で被災を受けた方の生々しい体験も聞くことができ、震災の教訓を後世に語り継ぐ必要性をつかみました。

③人と防災未来センター 展示、資料収集・保存、災害対策専門職員の育成、

防災研究と育成、災害対応の現地調査・支援、交流ネットワークの6つの機能を備えたセンターとして大変、勉強になりました。また震災体験、記憶、減災体験のフロアなどテーマ別に設置されていて、全国からも学生が多く訪れているように防災教育にも役立つセンターと思います。

視察行程

【12月19日(木)】 -1日目-

8:30	発	東京駅
	↓	移動(のぞみ17号)
11:14	着	新神戸駅
11:20	発	
	↓	移動(貸切バス)
13:30	着	神戸市役所(視察1)
	↓	①震災後の復興について ②防災対策等について
14:45	発	神戸市役所
	↓	移動(貸切バス)
15:35	着	北淡震災記念公園(視察2)
	↓	①現地視察(北淡震災記念公園野島断層保存館)
17:00	発	北淡震災記念公園
	↓	移動(貸切バス)
17:50	着	宿泊先

【12月20日(金)】 -2日目-

9:15	発	宿泊先
	↓	移動(貸切バス)
9:30	着	人と防災未来センター(視察3)
	↓	①現地視察(人と防災未来センター)
12:00	発	人と防災未来センター
	↓	移動(貸切バス)
12:10	着	新神戸駅
13:52	発	新神戸駅
	↓	移動(のぞみ28号)
16:33	着	東京駅 解散

令和6年度

防災・震災対策調査特別委員会視察報告書

令和7年1月発行

<発行・編集>

豊島区議会

住所：豊島区南池袋2-45-1

電話：03-3981-1111（代表）